

1 社会・治安情勢

(1) カラチ市内では本年9月から開始されたテロリスト、標的殺人犯、誘拐犯、恐喝犯を対象とした掃討作戦により、テロリスト107名、標的殺人犯278名、誘拐犯52名、恐喝犯208名を含む合計10,925名の犯罪者(窃盗、強盗、武器・薬物所持、逃亡者、未収監者などを含む)の身柄を拘束した(約1/3が拘置・留置、2/3が保釈、100名程度が証拠不十分で釈放された)。この掃討作戦により、毎月200人以上出ていたカラチ市内の殺人被害者数が約140人に減少し、この結果、カラチ市内の体感治安は向上した。その一方で、警察やレンジャー等の治安機関を狙った爆弾テロや襲撃が多発し、2013年の警察官の殺害者数は179名と過去最高(2012年は143名)となった。また、イスラム教スンニ派とシーア派の宗派間抗争と見られる殺人事件も増加し、州政府はシーア派の宗教行事開催日に携帯電話サービスが遮断するなどして警備対策に万全を期したが、依然として両派の宗教施設や関係者が爆弾テロや標的殺人の被害に遭うなどしており、治安の根本解決には至っていない。

(2) バロチスタン州では10～12月中も引き続き、バロチスタン解放軍等の過激派武装集団による爆弾テロや標的殺人が頻発した。クエッタ市内では、警察などの治安機関を狙った爆弾テロに一般人が多数巻き込まれて死傷する事件が頻発し、また、列車が爆破され多数の死傷者が出るなど、バロチスタン州の社会基盤を揺るがす事件が発生した。また、シーア派教徒を狙ったとみられる爆弾テロ事件も相変わらず発生しており、治安悪化に改善の兆しは認められない。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) シンド州警察が発表した本年10月～12月の犯罪統計によれば、カラチ市における犯罪件数は9,779件発生し、前年同期の10,087件とほぼ横ばい状態である。犯罪種別は以下のとおり。(カッコ内は前年同期)

- ・ 殺人 422件(572件)
- ・ 身代金目的誘拐 22件(17件)
- ・ 暴動 119件(163件)
- ・ 侵入強盗 94件(135件)
- ・ 自動車目的強盗 87件(151件)
- ・ 武器不法所持 2,076件(1,455件)
- ・ 交通死亡事故 112件(94件)

ただし、9月から始まった掃討作戦により殺人事件数は上半期に比べると約3/4にまで減少(月平均200件から約140件に減少)しており、その点が報道などで大きく取り上げられていることで、カラチ市内の体感治安が向上しているものの、掃討作戦の効果により、不法銃器等の押収件数が増加している事実は、当地が銃社会であり常に治安悪化の潜在的な危険性を有していることを表している。

(2) 邦人被害事案

1 1月下旬にカラチ市ディフェンス地区において、在留邦人の乗った車両が交差点でパキスタン人男性から木材で突然叩かれ、窓ガラスなどが壊されるという事件が発生した（犯行動機などは不明）。

3 主なテロ・爆弾事件発生状況

(1) 10月2日、バロチスタン州マシュカイ地区において、9月24日に発生したアワラン地区の大規模震災の救援活動に向かう辺境警備隊の車両が、道路脇に仕掛けられた爆弾の爆発に巻き込まれ、隊員2名が死亡、4名が負傷した。

(2) 10月2日、バロチスタン州チャマン地区に所在する国境検問所で自爆テロが発生し、国境警備隊員や警察官など11名が死亡した。

(3) 10月10日、バロチスタン州クエッタ市所在の中央市場付近でオートバイに仕掛けられた爆弾が爆発し、市場に来ていた少なくとも8名が死亡、35名以上が負傷した。

(4) 10月15日、バロチスタン州クエッタ市ハザルガンジ地区で迫撃砲弾による攻撃が起こり、警察官2名を含む10名が負傷した。

(5) 10月21日、バロチスタン州ナシラバード郡デラ・ムラド・ジャマリ地区において、急行列車が走行中、線路で爆発が起き、客車4両が脱線し乗客7名が死亡、16名以上が負傷した。

(6) 10月26日、バロチスタン州マストゥング郡ダレンガル地区で巡礼者を乗せたバスのそばで爆発が起き、警備に当たっていた治安要員2名が死亡した。

(7) 10月30日、バロチスタン州クエッタ市ザルクーン・ロードの市場において、爆弾テロが発生し、少なくとも5名が死亡、18名以上が負傷した。

(8) 11月13日（シーア派宗教行事アシュラ前日）、カラチ市ノースナジマバード地区などでシーア派教徒を標的にした爆発事件が2連続発生し、治安関係者や一般人ら20名以上が重軽傷を負った。

(9) 11月19日、バロチスタン州グワダル郡ジャンナト市場で商店に手りゅう弾が投げ込まれ、少なくとも5名が負傷した。

(10) 11月20日、バロチスタン州クエッタ市シルキ・ロードの警察署付近で2連続の爆発が起こり、1名が死亡、3名が負傷した。その15分後、同市モチ・ラム・ロードで爆発が起こり、2名が死亡、4名以上が負傷した。

(11) 11月21日、バロチスタン州クエッタ市サテライト・タウンにおいて、オートバイに仕掛けられた爆弾が爆発し、5名が死亡、25名以上が負傷した。この爆発に辺境警備隊の車両2台が巻き込まれ隊員も負傷した。

(12) 11月22日、カラチ市フェデラルB地区シーア派居住区において、2発の遠隔操作式の爆弾が連続して爆発し、7名が死亡、28名以上が負傷した。

(13) 11月26日、シンド州ハイデラバードにおいて、警察官がオートバイに乗った3人組の武装集団に襲われ4名が死亡、また流れ弾により通行人2名が負傷した。この件に

つき、宗教過激派組織が犯行声明を出した。

(14) 12月1日、カラチ市MAジンナー・ロードにおいて、シーア派関係者2名が銃撃され死亡、翌2日、カラチ市フェデラルB地区の病院において、スンニ派政党幹部が襲われ死亡した。さらに3日、カラチ市ユニバーシティ・ロード上において、シーア派政党幹事長が武装集団に射殺された。

(15) 12月2日、バロチスタン州シビ郡レハリ所在の辺境警備隊の検問所付近で地雷が爆発し隊員2名が死傷した。

(16) 12月2日、カラチ市カユマバード地区に所在する報道機関の建物に手りゅう弾数個が投げつけられ、爆発により3名が負傷した。

(17) 12月3日、カラチ市ノースナジマバード地区のスンニ派モスク前で来訪中のモロッコ人宣教師3名が武装集団に銃撃を受け殺害された。

(18) 12月5日、バロチスタン州チャマン地区のシーア派モスク前で、オートバイに仕掛けられた爆弾が爆発し、少なくとも1名が死亡、17名以上が負傷した。

(19) 12月12日、カラチ市ランディ地区において、レンジャーの車両に対する爆弾テロが発生し、隊員1名が死亡、5名以上が負傷した。

(20) 12月21日、カラチ市ジャムシェッドタウン地区において、テロ対策捜査官が乗った車両に爆弾を積んだオートバイが体当たりして爆発し、通行人2名が死亡、同捜査官を含む20名以上が負傷した。

(22) 12月24日（シーア派宗教行事チェヘラム当日）、カラチ市オランギタウンのシーア派モスク前など市内4カ所で爆弾テロ事件が発生し、計4名が死亡、27名以上が負傷した。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

シンド州警察が発表した10月～12月の犯罪統計によれば、カラチ市内における身代金目的誘拐は22件、身代金目的以外誘拐・略取は364件、児童誘拐は18件発生している。なお、期間中、邦人が被害者となる誘拐事件は発生していないものの、過激派組織が資金稼ぎのために犯行に及ぶケースや一般犯罪組織等が誘拐した被害者を金銭目的で過激派組織に売り渡すケースもある。在留邦人を含む外国人が誘拐された場合には事件が長期化する傾向が強いので、当地で生活するうえで誘拐犯などの犯罪者に隙を与えない日常行動が重要である。

5 日本企業の安全に関する諸問題

カラチ市を含む当地において、安全な生活を行っていただく上で当館ホームページに掲載中の「安全の手引き（平成25年11月改訂）」を参考にしていきたい。

当館ホームページ <http://www.kr.pk.emb-japan.go.jp/j/>